

とんぷく	2021年1月7日
	発 行
	京大職組病院支部 第 20-1号
	通算 2735 号

仕事のことetc お気軽に下記へ

**京都大学職員組合連絡先**

内線：16-7615 電話：761-8916

FAX：751-8365

email：office@g.kyodai-union.gr.jp

## 11.2 病院長・看護部長懇談

# 現場からの要求 一歩でも前進を！

11月2日に病院長・看護部長懇談を行いました。宮本病院長、井川看護部長、佐々木事務部長、はじめ6名が参加されました。コロナ禍ではありましたが、十分な間隔をあけて対面の懇談で行いました。

### 1. 新型コロナウイルス（COVID-19）への対応について

まずは、新型コロナウイルスへの対応について、現状の説明を聞き、現場の要望を伝えました。ユニットなどコロナ陽性患者に関わる医療従事者への手当ては開始されました。しかし、陽性の判定が出るまで受け入れた病棟も、疑い患者で嚴重な感染防御の対応を取っており、精神的にもストレスがかかる勤務であるにもかかわらず、手当ては出ていません。このことを強調しました。「疑い全てには求められませんが、結果が陽性である場合はユニットと同じように手当てを検討してほしい。」と訴えました。「お話を預かり、対応従事者への手当てを検討する」と発言をもらいました。



### 2. 特定有期雇用職員の常勤化について

引き続き、常勤化を要望しました。B定員数に関しては、これまでの増減を参考に提示され、「数は多くないが、病院としても年々増やしてきている。しかし、人数を大きく増やしていくのは難しい。」という回答でした。この課題に関しては「診療科運営カンファレンスでも要望が出ており、各部門でチェックしている。これからも続けて欲しい若い年代が続けられない状況になっており、職場の年齢構成に問題が起きている。」といった現状を伝えました。病院からは「シミュレーションしながら対応していきたい。」という返答でした。組合からは「やは

（裏面へ続く）

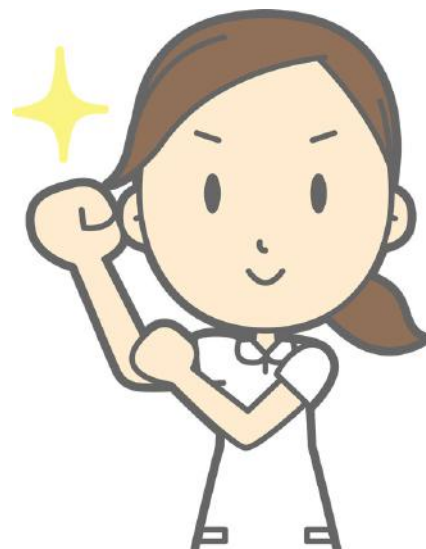
り5年という天井がある、見えていることが問題で、若い優秀な人材は5年を待たずにどんどん他に行ってしまうので、例えば職員への評価の仕組みなど運用を変えて『5年たっても優秀であれば継続できる道を一定つくる』ことができないか」など提案しました。

### 3. 長日勤手当、賃金について

### 4. 看護師の働き方について

### 5. 保育体制について

継続の長日勤手当に関しては、看護部からも要望として出されていることを主張し、確認しました。しかし、「長日勤務は危険手当ではないので難しい。」との意見でした。また、組合からは「長日勤を行う人が疲弊しないよう、みんなが担って回数負担が減らせるように、師長の裁量だけで免除される、されないとするのではなく、育休復帰の人たちにも意識付け、看護部としての方針を打ち出してほしい、合わせてそのための保育体制、設備を進めてほしい。」ということを伝えました。



昨年、8月28日(金)に第57回病院支部定期大会を開催し、下記の通り、新任役員も選出されました。お忙しいなか、ご参加頂いたみなさま、ありがとうございました。

#### 京都大学職員組合病院支部 2020 年度役員選挙結果について

6月30日告示、7月7日投票締め切り・開票した標記の内容を報告します。  
この期間の組合員数は183、当日有権者178名（組合員数から途中退職者、育児休業など長期休暇者を除く）で、投票数は133、投票率は74.7パーセントでした。  
個々の立候補者への投票結果は下記の数字で、全員信任されました。

2020年7月22日  
京大職組病院支部選挙管理委員  
倉本 科子

立候補役職名	氏名	信任	不信任	白票・無効
執行委員長	北久保 和加子	129	4	0
副執行委員長	山岡 孝平	130	3	0
書記長	南角 学	130	3	0
執行委員	子安 円	128	4	1
執行委員	田村 享子	129	3	1
執行委員	長井 佐知子	128	4	1
執行委員	古谷 和紀	130	3	0
監査委員	斎田 聡一朗	129	4	0

保育所体制に関しては「アンケートされた結果から改善できることには取り組んでほしい。」と話しました。「慣れない環境に預けるのはかわいそう。」といった意見もありましたが、「楽しく利用できることを宣伝してもらうなどの工夫、預けられる曜日の拡大、費用負担軽減も検討してほしい。」ということも組合から要望しました。また、院内保育所の場所に関しては「西病棟跡地が有力で大学に申込み、結果は来春にわかる予定。職員が利用しやすい設備を構想中である。」と説明されました。

総じて、今後、長日勤手当の要求も継続するが、みんなが担える働き方なども検討・提案していかないといけないのではないかと感じ、今後、組合としても相談していきます。

いずれも、すぐに解決には至りませんが、現場の声を伝え少しでも働きやすい環境へ繋いでいけるよう、職員組合として要求していきたいと思えます。